

〔鹽尻二〕兄弟 舊事宣化紀に、同母弟と書せるを、ハラカラノイロと訓せり、自腹の弟といふ事夫レカラといふに同じ、然れば異母兄弟をば、ハラカラとは云まじきにや、

〔冠辭考波〕はしむかふ おとのみこと

萬葉集卷九に、弟の死たるを、父母賀成乃任爾箸向弟乃命者云々、また二つあり、先古き語の意にていは、相うつくしむ向はる、弟の命といふか、集中に愛妻愛婦など書たるは、はしきつまともはしづまともよむべく、又同じ愛妻の字を、うつくしづまともよむべき所もあり、又愛八師君之使とも古事記には、波斯那夜斯和伎弊能迦多ともあれば、彼これを照してみるに、皆うつくしむてふ意也、向とは心になふことなどを、古へは向しきといへれば、さる意にていふか、はた二人ある兄弟は相對ふ理りのみにても有べし、今一つは箸と書るを正しき字とせば、今の人たゞ二人ある兄弟をはしよりおと、ひといふは、古へよりいへることにてかくいへるか、食もの、具など歌によめること古への常也、

〔古事記上〕於是天津日高日子番能邇邇藝命、於笠沙御前遇麗美人略 問有汝之兄弟乎、答曰我姉石長比賣在也、

〔古事記傳十六〕兄弟は此は波良賀良と訓べしイロネイロドと訓はわるし

〔天和物語上〕かいせうといふ人、法師になりて、山にすむあひだに、あらはひなどする人のなかりければ、おやのもとにきぬをなん洗ひにをこせたりけるを、いかなるをりにか有けんむつがりて、おやはらからのいふ事もきかで、法師になりぬる人は、かくうるさきこといふものかといひければ、よみてやりける、

いまはわれいづちゆかましやまにてもよのうきことはなをもたえぬる

〔安齋隨筆 後編七〕兄弟、他人の始 世諺に、兄弟は他人の始と云事あり、愚人は悪く心得て、兄弟は